

包 括 的 公 表

平成 29 年 4 月～6 月に報告された医療事故のうち、包括的公表となる事例は下記のとおりです。

発生場所	概 略	再発防止策
病棟	経鼻カニューレで在宅用人工呼吸器を導入中の患者の加温加湿器の温度プローブが正しく接続できておらず、回路の温度が上昇した。熱傷はなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 普段取り扱わない機器を患者に導入するときは、導入時に臨床工学技士による設置と説明を受ける。
病棟	副腎皮質ホルモン製剤 0.18mg 投与の指示があったが、0.18ml 投与した。患者に影響はなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手順に沿って正しくダブルチェックを行う。ワークシートの表示方法の改善を行う。
外来	化学療法前の体重測定時、測定の設定を誤り、治療薬の過少投与となった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体重の正しい測定方法を体重計の近くに表示する。 ・ 体重と薬剤の投与量が関係することを関係部門で再度学習する。
手術室	全身麻酔開始時、麻酔器の回路内の二酸化炭素吸収装置内のソーダライムが空だった。アラームで異常に気づき、対応したため患者に影響はなかった。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 麻酔器の始業点検を、チェックリスト等を用いて確実にを行い、手術室担当の臨床工学技士とも連携を図り、確実に実施する。
手術室	手術開始直前の神経ブロックの際、左右間違えて穿刺。局所麻酔薬投与前に反対側を穿刺していることを指摘されて気づいた。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレスキャン前に、看護師主導で局所神経ブロックのタイムアウトを行う。その際、麻酔科医師が患側にその場でマーキングする。 ・ プレスキャン後、施行前と針を穿刺する直前の 2 回、左右及び穿刺部位の確認を、医師・看護師で行う。